

地域総合研究所2005（平成17）年度活動報告

所長 齋藤 義 則

はじめに

2005（平成17）年度末に当たり、本年度の活動報告および研究所活動の課題、次年度活動計画等について報告する。

本年度の研究所活動は、各研究グループの「調査研究活動」、科学研究費など「共同研究プロジェクト」、『年報』の定例刊行、月例の「研究例会」、各地域未来研究会はもとより、「所員会議」についても、当初予定のとおり毎月実施された。本年度も、研究所の自主研究として93年度から継続して実施している研究プロジェクト「地球環境とサステナブル・ディベロップメント」、「福祉社会の形成と行政・企業行動の新基準」、「混住社会における地域システム」研究グループの調査研究活動の他、96年度の所員会議で提案された「アジア地域研究」などのテーマについても後述の三つの研究会と関連させつつ調査研究が進められ、福祉部会の定期開催、各グループの「研究例会」での報告や『年報』への論文執筆をふくめた研究活動はほぼ当初計画とおりに推進された。機関紙『茨城大学地域総合研究所年報』も2004年度に38号を数え、同年度の活動成果と課題などを収録した。

2004年10月には「茨城大学地域総合研究所鹿嶋研究センター」（センター長 帯刀 治所員）が設置され、客員研究員6名、ボランティア事務局員8名、鹿嶋市役所と協働して、毎月研究例会を行ってきた。新たに、水戸市の中心市街地再生をテーマにした「茨城の県都再生研究会」を大工町繁華街活性化協議会や大工町1丁目地区再開発組合、水戸商工会議所、水戸市役所等と協力して設置し、活動を展開してきた。

中期計画に基づく05年度計画は、①地方公共団体および市民、NPOと協力して学際的な地域研究の拠点活動を促進する、②自治体職員の政策立案能力を向上させるための、研修講座、公開講座等の開講をより一層拡充する、③学際的な研究成果の地域還元をはかるためのシンポジウムを開催するであり、その計画を十分達成できたと評価している。

なお、独立行政法人化に伴い、本研究所は茨城大学学内共同教育研究施設管理委員会を構成する施設に位置づけが変更された初年度であり、非常勤事務職員経費が大学本部より支給されるなど一定の活動支援が得られたと判断する。

以上のように本年度のそれらいずれの活動も「研究所規則」の目的（第2条）、事業（第4条）の趣旨にも添うものであり、相応の結果があったと判断している。

1. 学際的な地域研究の拠点活動

(1) 研究例会

4月15日（金） 1. 東海村科研費プロジェクト2004年度報告

(1) 簡易放射線計測システムのオンラインネットワーク化と防災学習カリキュラム開発グループ

担当者：自然科学系教官

報告者：熊沢紀之、桑原裕史

(2) 避難経路選択の住民意思決定支援システムの構築とコミュニティーサービス

ラーニング研究グループ

担当者：帯刀 治、雨宮昭一、齋藤義則、熊沢紀之

報告者：帯刀 治, 斎藤義則

1) 地域システムの国内比較調査グループ

担当者：河野直践, 渋谷敦司,

報告者：河野直践, 渋谷敦司

2) 避難システムと防災学習カリキュラムを中心とした地域システムの国際比較グループ

担当者：雨宮昭一, 斎藤義則

報告者：雨宮昭一

2. 2004年度客員研究員研究活動報告と2005年度研究活動計画

報告者：有賀絵理, 今藤泰資, 太田美恵, 小林 登, 渋谷照夫,

鈴木昌友, 徳江和雄, 富山章一, 渚 和子, 先崎千尋,

山縣茂嘉, 渡辺七子 (50音順)

5月20日(金) 「タイ糖業の展開」 山本 博史 (人文学部)

6月17日(金) 「原発立地地域におけるリスク・コミュニケーション」 原口 弥生 (人文学部)

7月15日(金) 「農産物直売所あれこれ」 河野 直践 (人文学部)

9月16日(金) 「茨城の食と農と地産地消」 中島 紀一 (茨城県農業動向分析研究会代表・農学部教授)

10月21日(金) 「社会格差と自然災害による被害者」 中須 正 (独立行政法人 防災科学技術研究所特別技術員)

11月18日(金) 「建築の空間構成—住宅建築の設計を通して—」 寺内 美紀子 (工学部)

「タイ・ブーケット周辺の津波被害が共同体および住民の心身に与えた影響について」 伊藤 哲司 (人文学部)

※茨城大学工学部にて開催

12月16日(金) 「米国における金融の再編と地域性」 内田 聡 (人文学部)

1月20日(金) 「劇場型選挙のプロレゴナメ—2005年総選挙における東京都民の投票行動と社会意識」 松谷 満 (徳島大学)

(2) 鹿嶋研究センター研究会

3月25日(金) 「東京行き直行運行バス実現のためのアンケート取りまとめの報告」

下 彰 (鹿嶋研究センター客員研究員)

「平成17年度地域総研の研究プロジェクトテーマの説明」

帯刀 治 (鹿嶋研究センター長)

- 「鹿嶋研究センター事務局員の業務要領、
研究センター活動へのかかわりについての要望と意見調整」
針尾 孝子（鹿嶋研究センター事務局員）
- 4月22日（金） 「平成17年事務局員当番の確認」
「鹿嶋市と茨城大学との包括協定の構想について説明」
斎藤 義則（茨城大学地域総合研究所長）
帯刀 治（鹿嶋研究センター長）
「鹿嶋市に市民大学開設の準備を鹿嶋研究センターで実施すること
を決議」
西岡 邦彦（鹿嶋研究センター客員研究員）
君和田 毅（鹿嶋市職員）
- 5月27日（金） 「内田鹿嶋市市長と鹿嶋センター客員研究員との懇談会の議事内容報告」
懇談会参加者：西岡，下，橋本，渡辺，桐沢，富山（客員研究員）
帯刀 治
- 6月24日（金） 「まちづくり設計コンペの審査概要報告」 斎藤 義則
「研究論文作成の仕方例の紹介」 帯刀 治
「鹿嶋市市民大学開設の準備状況報告」 西岡 邦彦
- 7月22日（金） 「市民大学開設準備状況報告」 西岡 邦彦
「客員研究員の研究テーマ進捗状況報告スケジュールの確認」
村田 浩伸（鹿嶋研究センター事務局長）
- 8月26日（金） 「市民大学開設準備状況報告
ひたちいきいき百年塾、清見潟学習塾の視察報告をふまえての
開設構想の説明」 西岡 邦彦
「茨城大学公開講座の鹿嶋市開設の件」 帯刀 治
- 11月25日（金） 「茨城大学と鹿嶋市の包括協定締結完了についての報告」
帯刀 治
「鹿嶋灘学習塾の準備状況について」
「平成17年度客員研究員担当テーマの報告スケジュール確認」
西岡 邦彦
「下客員研究員のテーマ進捗状況報告
『鹿嶋市経済振興についての提案』」 下 彰
- 1月27日（金） 「客員研究員活動報告」 桐沢いづみ
村田 浩伸
「鹿嶋市総合計画後期計画策定のための市民意識の
アンケート調査依頼について」
企画：茂木（鹿嶋市職員）
- 大学側連絡事項、その他

(3) ひたち未来研究会

11月12日(土) シンポジウム「高齢社会における公共交通を考える」

「高齢者一人市民の移動の自由と交通政策との関係は—」

場 所：茨城大学工学部総合研究棟 8F イノベーションスペースにて

共 催：ひたち未来研究会・茨城大学地域総合研究所

協賛：茨城大学工学部・未来クラブ

後 援：日立福祉啓発協力会

(4) 福祉部会

4月13日(水) 「利用者から見たバリアフリー」の設計の解説

「痴呆ケア、介護予防と栄養管理」セミナー準備

5月11日(水) 「ADL対応型高齢者体操指導者養成セミナー(基礎編)」準備

第6回福祉展準備

6月8日(水) 情報誌編集会議

介護予防「フットケア」セミナー準備

7月13日(水) 「ADL対応型高齢者体操指導者養成セミナー(応用編)」準備

第6回福祉展準備

8月24日(水) 情報誌セミナー案内発送

第6回福祉展準備

9月14日(水) 第6回福祉展準備

「カウンセラー養成講座第1回」準備

10月12日(水) 第6回福祉展反省会

「カウンセラー養成講座第2回」準備

情報誌編集会議

11月9日(水) 「うつ病とセルフケア」セミナー準備

「一人浴入門」セミナー準備

福祉住環境研究会・住宅改修無料相談開始

12月14日(水) 「うつ病とセルフケア」セミナー準備

「カウンセラー養成講座・上級第1回」セミナー準備

無料カウンセリング「風の谷セラピー室」設置

1月18日(水) 「カウンセラー養成講座・上級第2回」セミナー準備

「マナー講座・第1回」準備セミナー

2月15日(水) 情報誌「つばさ」編集会議

3月8日(水) 「マナー講座・第2回」準備セミナー

(5) 茨城の県都再生研究会

会員：大工町繁華街活性化協議会，大工町1丁目地区再開発組合，水戸商工会議所，水戸市役所，
常陽産業研究所，常陽地域研究センター，茨城新聞社，地域総合研究所(事務局)

第1回 5月9日(月) (1) 茨城の県都再生研究会設立準備

(2) その他

- 第2回 6月20日（月） (1) 「全国都市再生モデル調査」への応募について（報告）
 (2) 「水戸の中心市街地再生イメージからみた大工町の課題」
 講師：大水 敏弘（水戸市都市計画部部長）
 (3) その他
 ・研究会の運営体制など
- 第3回 7月25日（月） (1) 「大工町事情」
 渡邊 円（飲食店経営者）
 (2) 05年度調査プロジェクトについて
 (3) その他
- 第4回 9月13日（火） (1) まちウォッチング結果中間報告について
 (2) アンケートについて
 (3) シンポジウムについて
 (4) その他
- 第5回 11月6日（日） シンポジウム
 テーマ：「誰もが安心して楽しめるちょっとスリリングな繁華街・大工町にするために」
- 第6回 12月22日（木） (1) 飲食店アンケートについて
 (2) 今後の予定について
 (3) その他
- 第7回 2月8日（水） (1) 05年度活動報告
 (2) 06年度活動計画
 (3) その他

2. 自治体職員等の研修・公開講座

- (1) 鹿嶋市 2005年9月23日（金）・24日（土）・25日（日）
 「地域振興と都市再生—茨城・鹿嶋の事例2005—」
 鹿嶋市職員，鹿嶋市民，教養総合科目受講生
 担当：地域総合研究所・斎藤義則，帯刀 治，鹿嶋研究センター客員研究員
- (2) 大洗町 2005年12月10日（土）・17日（土）・18日（日）
 「地域再生とまちづくり—大洗の海を活かしたまちづくり—」
 大洗町20才代職員，大洗町民，教養総合科目受講生
 担当：地域総合研究所・斎藤義則，伊藤哲司（人文学部）
- (3) 韓国忠北 NGO フォーラム日本視察団への講話 2005年12月12日（月）
 市民団体実務者8名，西原大学教授3名，忠北大学教授1名，マスコミ2名，その他2名，計16名
 「茨城県におけるNPO活動の現状と課題」 帯刀 治
 「市民まちづくり活動支援と大学の役割—都市地域計画の観点から—」 斎藤義則
- (4) 教養総合科目「原子力施設と地域社会」の開講 2006年2月11，12，18，19日
 担当：熊沢紀之ほか9名

3. シンポジウムの開催

- (1) 「茨城の地域再生シンポジウムーまちは甦るかー」
 2005年7月2日 人文学部10番教室・共通教育棟
 主催：地域総合研究所・常陽地域研究センター
 ① 遊休資産の活用による中心街の再生
 ② 学校普請による廃校再生
 ③ 地域循環型営農システムの構築
 ④ 住みたくなるような子育て支援
- (2) 「東海村原子力防災対策と地域社会」報告会
 2005年10月1日(土) 茨城大学共通教育棟2号館10番教室
 主催：地域総合研究所
 第1部 原子力事故による土壌汚染とその対策
 東海村原子力施設内の土壌の環境放射線について
 第2部 市民参画型環境点検と防災避難経路シミュレーションモデルの開発
 第3部 エネルギー政策の国際比較と地域社会
 第4部 全体質疑
- (3) 「茨城の県都再生シンポジウム
 ー誰もが安心して楽しめるちょっとスリリングな繁華街・大工町にするためにー」
 2005年11月6日(日) 茨城大学人文学部10番教室
 主催：茨城の県都再生研究会・地域総合研究所
 第1部 男性中心・夜の街から女性・若者・高齢者・家族が楽しめる街へ
 第2部 安心して歩ける街へ
 ー違法駐車，歩道整備，客引き対策，交番機能の強化，自主防犯体制などー
 第3部 大工町飲食店が協働する仕組みづくりのために
 ー自治体・民間の連携や自治体自
 ー全体計画の策定，まちづくり協定の締結，組合の設立，行政との協働などー
 第4部 質疑応答
 会場からの質疑応答とパネリストによる自由討論
- (4) 第5回ひたち未来シンポジウム2005
 「高齢社会における公共交通を考えるー市民の移動の自由と交通政策との関係はー」
 2005年11月12日(土) 茨城大学工学部総合研究棟8Fインベーションスペース
 主催：ひたち未来研究会・茨城大学地域総合研究所・茨城大学工学部・未来クラブ
 1. 主催者代表挨拶
 2. 来賓挨拶
 3. 基調講演「高齢社会における公共交通のありかた」
 4. パネルフォーラム
- (5) 茨城大学地域総合研究所・茨城県地方自治研究センター公開シンポジウム
 「地域活性化の課題」
 2006年2月18日(土) 茨城大学人文学部10番教室
 主催：茨城大学地域総合研究所・茨城県地方自治研究センター
 1. 産業の活性化と雇用を考える

2. 今後の公共サービスのあり方を考える
3. 産官学労の連携による地域活性化の実践と今後の展望

4. その他

- (1) 「地域社会との協働による『まちなかラボ』を核にしたコミュニティ・サービス・ラーニング・カリキュラムの開発」（教育プロジェクト経費）帯刀 治，斎藤義則担当
- (2) 「自然環境の保全と活用ーグリーンツーリズム・森林活用」斎藤義則，斎藤典生，堀良通担当
- (3) 東海村総合計画後期計画策定アドバイザー

5. 運営委員会・所員会議

- (1) 茨城大学地域総合研究所運営委員会

- 2005年3月9日（水）
- ・平成16年度研究活動報告について
 - ・平成17年度研究活動計画について
 - ・規則改正について
 - ・研究所施設の利用計画について
 - ・その他

- (2) 所員会議

- 5月20日（金）
- ・茨城の地域再生シンポジウムの開催について
 - ・その他
- 6月17日（金）
- ・地域再生シンポジウムについて
 - ・その他
- 7月15日（金）
- ・夏季休暇中の研究活動計画
 - ・東海村原子力シンポジウムの企画
 - ・鹿嶋市職員研修について
 - ・その他
- 9月16日（金）
- ・科研費東海村プロジェクトの報告シンポジウム開催について
 - ・その他
- 10月21日（金）
1. 2005年度後期研究活動計画について
 - ・研究グループ別活動計画
 - ・地域システムグループ
 - ・福祉グループ
 - ・アジアグループ
 - ・環境・安全グループ
 - ・鹿嶋研究センター
 - ・その他
 2. 年報について
 3. 点検評価について
 4. 県都再生シンポジウムについて
 5. その他

12月16日(金) ・運営体制について
 ・その他

1月20日(金) ・05年度研究活動報告
 ・点検評価について
 ・06年度研究活動計画
 ・その他

2月17日(金) ・05年度活動報告
 ・06年度活動計画
 ・各担当の選出
 ・その他

(3) 2005年度担当委員

研究主任	福祉グループ 松村, 環境・安全グループ 堀 地域システムグループ 渋谷, アジアグループ 木村
庶務(所員会議)	渋谷(人文), 熊沢(工)
研究(研究例会)	西野・原口(人文), 堀(理), 大槻(教育) 小柳(工)
年報(出版編集)	井上・河野(人文)
情報(交換雑誌・ホームページ)	桑原(工), 堀(理)
会計(調査研究費)	帯刀(人文), 熊沢(工)
鹿嶋研究センター長	帯刀(人文)

地域総合研究所2006（平成18）年度研究活動計画

1. 研究活動の課題と方針

(1) 基本方針

1) 現 状

- ① 多様な研究活動と地域社会との協力連携関係が築かれ、地域社会から一定の評価が得られてきたが、あいかわらず特定の所員に過重な負担が強いられている。
- ② 本研究所の最も重要な柱である研究例会は継続して開催され、所員に学術的研究の知識刺激を提供してきたことは評価できるが、出席者が少なく、何らかの対応が求められている。
- ③ 茨城大学学内共同教育研究施設管理委員会における本研究所の位置づけを強化しその具体的対応が求められている。

2) 研究活動と組織運営

- ① 学際的な共同研究をより一層促進する。
- ② 地域社会との協力連携関係を強化・充実する。
- ③ 学内における認知度、評価を高める。
- ④ 外部資金を積極的に獲得する。
- ⑤ 定員配置を継続して努力する。

3) 年度計画

- ① 地方公共団体および市民、NPO と協力して学際的な地域研究の拠点活動を推進する。
- ② 自治体職員の政策立案能力を向上させるための、研修講座等の開催を充実する。
- ③ 学際的研究成果の地域還元をはかるためのシンポジウムを地域社会の諸団体と協力して開催する。
- ④ 学際的研究成果を図書として出版する。

4) 調査研究費の確保について

2006年度は外部資金の獲得を含めて、安定的な調査研究費の確保が不可欠である。

2. 学際的な研究拠点活動の推進

(1) 研究例会（毎月第1水曜日）

研究例会は、前述のように、定期開催が定着し、研究所の活動に即した報告及び若い教官による研究成果の発表など相応の成果が上げられている。この方向は、今年度も継続すべきであろう。93年度に組織された環境研究・福祉社会研究・地域システム研究の3グループ、97年度から組織されたアジア地域研究グループの調査研究は、多様に展開してきている。今年度は新たに、在住外国人研究グループを発足させ、より地域のニーズをふまえた学際的研究を促進したい。それぞれの所員が地域に関わりつつ、ゆるやかな形で部会を構成する方向が見えはじめており、調査・研究にたくさんの多様な住民が恒常的に関わってきており、それぞれの研究グループは日立・水戸・鹿嶋地域・大洗地域等との比較研究と有機的に関連させることが必要である。

また、研究所が以前から提起した地域システムの理論とシナリオが、地域でより豊かにかつ多様に実践されている状況があり、それを踏まえた新しい理論的貢献が切実に求められている。

- 4月5日 地域システム研究グループ報告(佐川研究主任)
- 5月10日 在住外国人研究グループ報告(伊藤研究主任)
- 6月7日 「茨城の都市地域再生」①
- 7月5日 福祉研究グループ報告(松村研究主任)
- 10月4日 環境研究グループ報告(熊沢研究主任)
- 11月1日 「茨城の都市地域再生」②
- 12月6日 アジア研究グループ報告(木村研究主任)
- 1月10日 「茨城の都市地域再生」③
- 2月7日 退職所員報告

(2) 鹿嶋研究センター

大学との包括協定に基づき次のような活動を予定している。

1) 定期的な研究会の開催(毎月第4金曜日)

- 4月28日 研究会(1)
- 5月26日 研究会(2)
- 6月23日 研究会(3)
- 7月28日 研究会(4)
- 9月22日 研究会(5)
- 10月27日 研究会(6)
- 11月24日 研究会(7)
- 12月22日 研究会(8)
- 1月26日 研究会(9)
- 2月23日 研究会(10)

2) 共同調査研究

- ① サッカースタジアム周辺土地利用対策策定調査
- ② 市内公共交通体系構築事業調査
- ③ 男女共同参画計画策定調査
- ④ 総合計画後期基本計画策定調査

3) 職員研修講座

4) 公開シンポジウム

(3) 福祉部会(毎月第2水曜日)

- 4月12日 福祉部会(1)
- 5月10日 福祉部会(2)
- 6月14日 福祉部会(3)
- 7月12日 福祉部会(4)
- 9月13日 福祉部会(5)
- 10月11日 福祉部会(6)
- 11月8日 福祉部会(7)
- 12月13日 福祉部会(8)

1月10日 福祉部会(9)

2月14日 福祉部会(10)

3月14日 福祉部会(11)

(4) 県都再生研究会（毎月1回随時開催）

(5) 大洗ライフスタイル研究会（随時開催）

(6) ひたち未来研究会（随時開催）

3. 自治体職員等の研修・公開講座の開講

① 鹿嶋市職員研修講座

② 大洗町職員研修講座

4. シンポジウムの開催

① 県都再生シンポジウム

② ひたち未来研究会シンポジウム

③ 地域再生シンポジウム

④ その他地域社会からの要請に応じて開催する

5. 学際的研究成果の図書出版

『年報』は1991年の第25巻以来、着実に定期刊行されるようになってきた。今年度も年度内に発行する。

また、これまでの研究成果をまとめて、『茨城の都市地域再生（仮題）』の図書を出版する。

6. その他

① ICAS（地球変動適応科学研究機関）「部門3 適応のための生活行動圏計画・政策研究」に参加し、「サステナビリティ学」の構築を推進する。

② 科学技術振興調整費に申請中の「持続可能な流域圏環境管理技術の開発」研究（「流域圏の活用と連携した瀬咲く体系とその評価方法」担当）に参加し、霞ヶ浦流域の学際的研究を推進する。

③ 科学研究費に申請した「東海村における原子力防災力の向上-地域住民と協力連携した防災避難計画の策定」研究を促進する。

7. 運営委員会・所員会議等

(1) 所員会議（毎月第1水曜日）

学科会議・教授会などと異なり、個々の所員には、具体的な報酬とサンクションがない当研究所は、所員の自主的意欲と「手弁当」的参加に依存せざるを得ない。近年、所員会議・研究例会の出席や調査研究への参加は増えつつあるが、数名の担当委員によって活動を推進しなければならず、活動参加を促す観点から課題が残っている。一方、近年急速に地域社会との共同研究活動が広がっており、各活動の担当体制を明確にすることが必要である。各活動のグループの自立的で柔軟なコミュニケーションを促

進することも必要である。

研究例会・所員会議を第3金曜日夕方に行ってきたが、所員のアンケート結果をふまえて、今年度は第1水曜日の午後に実験的に変更することにした。所員は、その時間を確保することが必要である。

ただ、近年の国際・国内・地域での活動とニーズの拡大と深化への対応および研究活動のより一層の充実のためには、所員・事務の専任体制でなければ対応できないところまできている。

4月5日 前期研究活動計画(各グループ主任)
客員研究員活動報告

5月10日 未定

6月7日 未定

7月5日 ① 夏期休暇中の活動計画
② その他

10月4日 後期研究活動計画(各グループ主任)

11月1日 未定

12月6日 ① 所長選挙について
② その他

1月10日 未定

2月7日 ① 06年度活動報告
② 07年度活動計画

(2) 運営委員会

3月9日 午前11時～12時30分

- ① 06年度活動報告
- ② 07年度活動計画
- ③ その他

(3) 2006年度 委員(担当)

鹿嶋研究センター長	帯刀(人文)
研究主任	福祉グループ 松村, 環境・安全グループ 熊沢 地域システムグループ 佐川, アジアグループ 木村 在住外国人グループ 伊藤
研究(研究例会)	中田(人文), 蓮井(人文), 堀(理), 大槻(教育) 小柳(工), 松田(農)
庶務(所員会議)	佐川(人文), 西野(人文), 熊沢(工)
年報(出版編集)	原口・井上(人文)
情報(交換雑誌・ホームページ)	桑原(工), 熊沢(工)
会計(調査研究費)	帯刀(人文), 熊沢(工), 堀(理)

点検評価 所長, 鹿嶋研究センター長, 研究例会・庶務・年報・会計担当
委員で構成し, 所長が統括する。